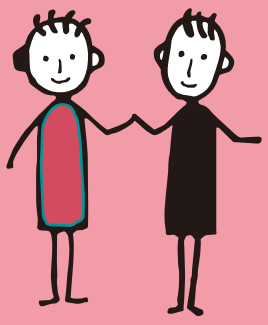
発行:福生市生活環境部協働推進課



男女共同参画情報誌

あなたとわたし

vol. 65

性別や年齢、国籍などの違いを超え、平等にともに手を携える関係でありたいから

特集　少子化を考える

～出産の現場とともに考える、これからの未来～

現在、社会でも問題となっている「少子化」。出生率が低い状況が続く中、将来への漠然とした不安を抱えている方も多いのではないでしょうか。
今回は、産婦人科医、小児科医への取材を通し、この問題について考えます。

「あなたとわたし」デイジー版について

目の不自由な方で、デイジーCD版「声のあなたとわたし」を希望される方に配布しますので、ご希望の方はお申込みください。

【問合せ】福生市生活環境部協働推進課
電話 042-551-1590

特集

少子化を考える

～出産の現場とともに考える、これからの未来～

2月28日、厚生労働省が公表した令和4年の年間出生数は、799,728人で、昨年と比べ43,169人（5.1%）減少し、統計開始以来、初めて80万人を割り込み、過去最少で、7年連続の減少となりました。

そのような中、明るい話題もありました。同公表の中で、婚姻件数は、519,823組で、昨年と比べ5,581組（1.1%）増加し、3年ぶりの増加となりました。これからの未来に期待したいですね。

様々な要因から、出産や子育てに対する不安を抱えている方もいるかと思われますが、現場の第一線で活躍する、産婦人科と小児科のお二人の医師にお話をお伺いしました。

「公立福生病院」は、福生市・羽村市・瑞穂町の２市１町で構成する福生病院企業団が運営する公立病院です。「患者さんに信頼され親しまれる病院」を基本理念に掲げ、地域の皆さんの健康保持・安心安全な医療の提供に努めています。

産婦人科医長
内藤 未帆 先生

小児科医長
岡本 さつき 先生

現在の出産や患者さんの状況は？

（内藤先生：産婦人科）里帰り出産を含めて、地域の方が利用する地域密着型の出産が中心です。分娩数（出産の件数）は、周囲の病院も含めて、全体的に減っています。自然分娩が中心で、無理な計画はしません。状況により、計画分娩もする場合があります。２人目、３人目のリピーターとして出産される方もいらっしゃいます。また、ここで生まれた子が、予防接種をはじめ、引き続き小児科として利用するケースも多くみられます。

（岡本先生：小児科）現在は予防接種もしっかりと行われているため、重症な感染症の患者さんが減少しました。最近は心身症（心からくる体の病）の患者さんが多くなりました。自身も含め、公認心理士の資格を併せ持つ医師が２人いるため、患者さんが集まってくるのかもしれません。腹痛や吐き気で学校に行けなくても胃腸炎ではなく、実は学校で嫌なことがあったから、という子の割合が増えています。困ったことがあれば、相談してください。

病院内での体制は？

出産直後に緊急な処置が必要となった時には、小児科へ連絡し状況を伝えると、すぐに駆け付けて対応してもらっています。また、当院で対応できる赤ちゃんであれば、お母さんと別室になったとしても、別々の病院ではないので、隣の病棟から歩いてお母さんが面会に来ることも可能です。産婦人科と小児科では、患者さんの情報を共有し、お互いに協力し合い、良い連携が取れていると感じています。

この仕事へのやりがいは？

（内藤先生）赤ちゃんが元気に生まれ、お母さんも元気な時は、喜ばしいことで、ポジティブな仕事だと思っています。緊急な対応が必要な時もありますが、無事に終わると本当に良かったと思います。

（岡本先生）赤ちゃんだった子が小・中・高校生へとダイナミックに変化する時期に関われて、成長を見守れることがやりがいの一つです。

公立病院としての役割

福生市は、国際色豊かなため、日本語も英語も難しい方がおり、意思疎通が図りづらい場合もあります。また、経済的に苦しい方やDV等の事情がある方もいるため、医師、助産師、看護師、社会福祉士などが連携して対応しなければなりません。ただ、そうした家庭の方も受け入れるのが公立病院としての役割の一つだと考えています。

連携したチーム医療で、患者さんをサポートします。

女性スタッフも揃っています。

現在の少子化について（病院としてできること）

（内藤先生）出産に対する不安があるのだと思います。身近に赤ちゃんがいないため、漠然とした不安があったり、経済的な問題もあるのだと思います。様々な理由があるかもしれませんが、必要のない不安は取り除くことができればと思っています。身近な地域で出産ができて、上手く育児へのスタートが切れるよう、そのサポートとして病院を利用してくれると良いと思っています。

（岡本先生）私たちが入院診療や退院診療後に初めて会うのは１か月健診ですが、育児に一杯一杯で余裕がない方もいらっしゃいます。通常であれば、次は保健センター等での３～４カ月健診となり、間が空いてしまうのですが、こうした方へは「また１か月後に会いましょうか」として、その時に心配なことや聞きたいことを伺う機会を持つようにしています。生まれた後の支援として、保健師や子ども家庭支援センターなどもありますが、その中に病院も加え、子どもに関する様々な事を相談してもらえればと考えています。

小児科の入り口です。

育児休暇の取得状況は？

（内藤先生）私自身は様々な事情により、余り育休は取りませんでしたが、産婦人科の取得率は以前から割と良い方で、ここ数年でも取得率は上がってきています。保育園に入るタイミングなどもありますが、半年から１年位で取得する方が多いように感じます。男性で１か月育休を取った後輩もいます。

（岡本先生）ちょうど人手不足の時期だったため、育休を分割して取得しました。かなり早めに職場へ復帰したため、その後、もう少し育休を取りました。仕事から離れてしまうと、置いて行かれる、という不安もありますが、小児科は育児と仕事が直結しているので、自分の経験から困っていることや状況が分かり、仕事にも活かすことができ、育休を取ることは意味のあることだったと感じています。

個人的に力を入れていきたいことは？

（内藤先生）分娩を取り扱う仕事で、当直もあるため、体力づくりに努めています。医師としての技術や知識を深めながら、同時に続けていきたいと思っています。

（岡本先生）小児科ということもあり、子育て＝（イコール）仕事につながるので、引き続き、医師と子育ての両立に力を入れていきたいと思っています。

市民の皆さんに伝えたいこと

（内藤先生）がん検診等の検診を受けてほしいと思っています。医者の立場としては、予防接種を勧奨したいです。特にHPV（ヒトパピローマウイルス）ワクチンは、子宮頸がんのみならず、色々な感染症も予防できます。接種に関して不安があれば、病院に来て話を聞いてから決めていただいても良いと思います。また、予防接種や検診に行かれた方は、友達など周りの方に、ぜひ勧めてもらえると嬉しいです。医者よりも身近な人から言われると効果も大きいので。

（岡本先生）分娩は100%安全という訳ではありません。緊急で帝王切開になる、出生後赤ちゃんに治療が必要となるなど、不測の事態がおきる可能性があります。その時に同じ施設内で治療が完結できるのは当院の強みだと考えます。いざという時に対応できるよう、小児科も少し多めの人数で体制を整えています。

取材を終えて…

約10か月の間、期待や不安を抱えながら、誕生のその日を待ち続ける、お母さんやお父さん。実際、赤ちゃんは生まれてみないと健康かどうか分かりません。何かあった時に、すぐに総合的な対応ができる所、そして各分野のスペシャリストが揃っている…。そのような病院が安心できると改めて実感しました。公立福生病院では、産婦人科と小児科、またその他の科との連携が取れ、とても上手く機能していました。そして出産後も引き続きお子さんをサポートし、長い目で診てもらえる、という所も魅力的でした。出産を考えている皆さん、ぜひ参考にしてください。

現役世代1.3人で1人の65歳以上の方を支える社会の到来

昭和25年には65才以上の方1人に対して現役世代（15～64歳）12.1人がいましたが、令和2年には、65歳以上の方1人に対し現役世代2.1人になりました。今後、高齢化率は上昇し、現役世代の割合は低下し、令和47年には、65歳以上の方1人に対して現役世代1.3人、という比率になる見込みです。※令和4年度高齢社会白書（全体版）より

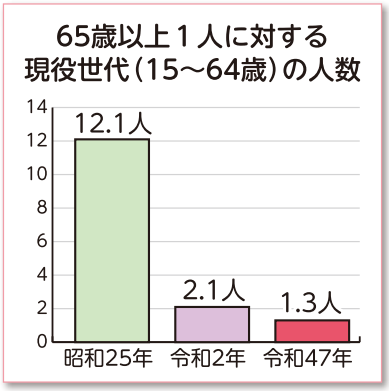
少子化につながる原因を考えてみました

未婚、晩婚化の増加とその原因

- 価値観の多様化、若者の考え方の変化（必ずしも結婚は必須ではない）
- 経済的不安、非正規労働、奨学金の返済（社会人になり始まる返済）
- 女性の高学歴化
- 社会環境の変化（お見合いや職場結婚など周囲が世話を焼く機会等が減少）

少子化の原因

- 未婚率の上昇
- 晩婚化による不妊の割合の増加
- 仕事をしながらの不妊治療の難しさ（有休が取りづらい等）
- 一家族当たりの子どもの数の減少（子育てに係る経済的負担のため）



少子高齢化が進むと、社会保険料の値上げにより、若者への負担が増となります。また、働き手となる若者を含めた労働人口の減少から、医療・介護等の現場で人手不足が生じたりします。このような状況に歯止めをかけるため、国の政策はもちろんですが、社会や私たち一人ひとりも変わり、安心して子どもを出産し、育てることができる社会を作ることが求められています。

「女性に対する暴力をなくす運動」のPRを行いました

▲市役所１階特設コーナーでの展示
女性に対する暴力根絶のためのシンボルマーク▶

毎年11月12日から11月25日の２週間は「女性に対する暴力をなくす運動」実施期間です。期間中に、市役所１階にコーナーを設置し、PRを行いました。

福生市が、令和元年度に行った「男女共同参画に関するアンケート調査」では、「暴力を受けたとき相談しなかった人の割合」は、44.7％でした。暴力を受けたのに相談できない人が一定数おり、いかに相談につなげられるかが重要です。友人や家族、公共の相談先など、自分が一番相談しやすい所へ、まずは勇気を持って相談してください。

【主な相談先】
DV相談＋（プラス）　電話 0120-279-889（24時間受付）

企画・デザイン・印刷

有限会社
あっぷ印刷工房
Tel. 042-539-7685
Fax. 042-539-7686
mail. upf-2@tbe.t-com.ne.jp

「あなたとわたし」の
編集員を募集しています！

誌面の企画や編集、また取材などに興味がある方、何かやってみたい方！経験は問いません。
（無償ボランティアです。）
ご意見、情報もお待ちしています！

問合せ
福生市 生活環境部 協働推進課　電話 042-551-1590

編集後記

●メディアでは、連日のように「少子化問題」が取り上げられるようになりました。日本の人口構成から見れば、だいぶ前から予測できたはずですが、目の前に現実問題として現れ、やっと動き出した感があります。希望の持てる未来に向けて、私たちも何か出来ることを考えていきたいと感じました。……［M］

市民編集員　郡司 綾子、田中 直美、正木 直美（50音順）
作製 編集：(有)あっぷ印刷工房

あなたとわたし vol.65　2023年3月発行
発行：福生市 生活環境部 協働推進課
〒197-8501 東京都福生市本町5番地　電話042-551-1590
https://www.city.fussa.tokyo.jp/

VEGETABLE OIL INK
再生紙を使用しています